

日本政治学会 会報

The JPSA News

No. 36

DEC. 1998

50周年に際して

理事長 五百旗頭 真

創立50周年を迎えた政治学会である。同志社大学における升味準之輔、三谷太一郎両先生の記念公演をはじめ様々な議論を聞きながら、改めてわが学会の「歴史」を想った。

昔も今も、日本の政治学は欧米からの「直輸入」であるとか、「あと追い」であるとか、「輸入はいいにしても一過性に留まっている」とかの自己批判が学会員の間になくはないという。とはいえ、戦前期に「英才に見捨てられたる政治学」と批判されたような事態に現在の政治学はないであろう。50年前に80名で開始された学会が、今日の1500名にまで量的膨張を遂げただけではない。私どもの世代が学生であった頃の政治学の教科書といえ、やはり欧米の理論の紹介が多かったように思う。最近では実際の政治現象に分かるような系統立った解説を施している場合が多いのではなからうか。去る9月にボストンで開かれたアメリカ政治学会(APSA)では、日本の政治学者が比較選挙の分野を中心に活躍し、「日本の侵略」と評されたという。知的輸出超過が例外でなく常態でありたいものである。

2倍、3倍となる円高のハンディを身を切るようなリストラを重ねて克服し、輸出競争力を保った製造業を「Japan A」国内の護送船団方式や談合方式、あるいは与党の支持基盤として公的資金づけ等に慣れてきた部門を「Japan B」と呼び分け、前者が国際水準をリードしているのに対し、後者はグローバリゼーションの中で沈没し日本発世界恐慌をもたらしかねないといった議論を耳にする。

同じ議論を学問について適用するのは早計というものであろう。日本語で国内にしか流通していなくとも、立派な研究は存在する。ただこの世界が狭くなる時代に、よきものを国際語で提供しないことは勿体ないし、長い目で見るとやはり国際競争にさらすことが、日本の政治学の水準向上に

とって必要であろう。

政治現象も世界的に連動する相を深めながら、他方で各社会の政治文化は個性的であり続ける。内外の研究者が同じ水準に立って普遍と個別の織りなす錦絵を楽しみ、国際的な共同研究を行う状況が望ましいであろう。幸いにも、近年、国際交流委員会の尽力により日米間だけでなく、日欧間、アジア諸国間でも共同研究が軌道に乗りつつある。国際市場に流通する政治学を生産できるか否かは、結局のところ政治学者個人に帰せらるべき問題であるが、学会としては、それが若い世代においてより大きな気運となるようお手伝いしたいものである。

さて、この任期が始まるに当たって、政治学会の組織的な課題についても申し上げたい。1500名の組織というのは、実は運営にとって恐るべき挑戦である。名簿管理、会計、郵便物の発送、研究大会の開催、どれをとっても担当者がかかり切りになり、学生アルバイトの動員をかけねばこなせぬ仕事と化している。学会員代わる代わるの尽力なしに学会活動は維持できないが、省けるところは省こう、という前事務局、東京大学の英断により、名簿や会計の学会事務センターへの外部委託が方向づけられた。今期にはそれを実施に移したいと思う。学会員の皆様に不自由を感じさせることも少なくないと思われるが、何とぞ御理解と御協力をお願い申しあげる次第である。

こじんまりした同志の集まりであったときに作られた制度が、大組織となった50年後に不都合を生ずるのは当然である。そうであっても、制度には手を着けず運用の柔軟さでこなすことをわれわれ日本は好む。だが、それをいつまでも続けることも難しい。組織の健全さのため、どこかで見直しておくことが望ましいこともあるのではなからうか。

2000年度『年報政治学』論文公募について

2000年度年報委員長 加藤 節

2000年度『年報政治学』の論文公募要領は下記の通りです。

- 1 政治学に関連するどのようなテーマの下に書かれた論文でも受け付けます。
- 2 分量は20,000字以内といたします。ハード・コピー(A4, 40字×30行)3部を御提出下さい。なお、コピーは返却いたしませんので御了承下さい。
- 3 応募を希望される会員は、1999年3月末日までに、同封の申込み用紙で応募登録をして下さい。その際は、封書の表に「年報政治学論文

公募」と朱書して下さい。論文の最終締め切りは、1999年11月末日といたします。

なお応募登録および論文の送付先は、

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

成蹊大学法学部 加藤 節研究室 です。

(TEL 0422-37-3555, e-mail kato @

law.seikei.ac.jp)

- 4 公募論文の採否は、年報委員会の下に設置する審査委員会の審査を経て年報委員会で決定し、2000年3月末日までに公募者と連絡いたします。なお、採択された論文については、改めてフロッピーとハード・コピー1部の提出をお願いいたします。

1999年度研究会企画に関するお知らせ

1999年度企画委員長 下斗米 伸 夫

99年10月に國學院大學で開かれる日本政治学会研究会の企画に関し、企画への御提案、また自由論題の報告を会員のみなさんから募集することが企画委員会で決まりました。つきましては会員各位からの積極的な御提案を募ります。なお最終的には企画委員会の検討を経て理事会で採用することになっておりますことを御了承下さい。

〈分科会企画の提案について〉

- ・司会の他、報告者2-3名、討論者1-2名を基準とする。

〈自由論題への応募について〉

- ・応募資格：日本政治学会員であること。
- ・報告条件：未発表の内容であること。1999年9月15日までに、報告論文を提出すること。
- ・応募の際の記入事項：題名・内容要旨(2000字程度)・氏名・所属・住所・電話番号

〈宛先および締切〉

- ・宛先 〒102 東京都千代田区富士見2-17-1
法政大学法学部 下斗米伸夫
(03-3264-9632)
- ・締切 1999年1月31日(消印有効)

研究業績自己申告のお願い

1999年度文献委員長 藪野 祐 三

今年も、例年通り下記の要領で会員のみなさまの研究業績を、『年報 政治学』に「学会展望」

として特集致します。同封の用紙にて、業績の自己申告をお願い致します。

その際、主要な研究業績を1、2点に限定し、抜刷りやコピー等もできるだけお送り下さい。ご著書につきましては、返送できませんので、お送りいただかなくても結構です。お送りいただいた場合、返送できない旨ご理解をお願い致します。また申告いただく際、各業績の専門分野をご指定下さい。

なお、紙幅の制約上、自己申告いただいた業績をすべて取り上げることができない場合がありますので、その点も併せてご理解いただけますよう、お願い致します。

申告対象期間 1998年1月1日から同年12月31日までに公刊された業績

(可能な限り、抜刷りまたはコピーの同封をお願いします)

業績本数 主要なもの1、2点。
 専攻分野 申告用紙に掲載した分野から選んで下さい。
 締め切り 1999年1月22日(消印有効)
 (期限を厳守下さい)
 送り先 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
 九州大学法学部 藪野祐三
 (送り先は学会事務局ではありませんので、お間違えのないよう、ご注意下さい。また、予算の関係で、封筒、切手等は各自でお願い致します。)

1998年度

総会記録

日時 1998年10月3日(土) 午後1時30分から
 午後2時25分まで

場所 同志社大学明徳館

1. 開会挨拶 梅津理事(開催校・同志社大学)
2. 理事長挨拶 佐々木理事長
3. 委員会報告

北岡98年度年報委員長、加茂99年度年報委員長、渡辺98年度企画委員長、大嶽国際交流委員長が、それぞれ報告し、その中で大嶽委員長より、アメリカ政治学会との交流を担当する小委員長を小林良彰理事に依頼したこと、また来年の派遣者について公募していることが報告された。

4. 決算・監査の件

馬場常務理事より1997年度決算について報告があり、石田監事より監査についての報告を受けたのち、承認された。

5. 予算の件

馬場常務理事から1998年予算案について報告があり、承認された。

6. 事務局報告

馬場常務理事より、大会会場における会費徴収の停止が混乱なく実施されていること、大会会場における事務局窓口の業務時間を短縮すること、事務の外部委託の方針が固まりつつあることが報告された。

7. 新理事長挨拶 五百旗頭新理事長

五十周年を越えて日本に根付いた政治学の構築

を目指す抱負が述べられた。また前理事会以来の事務簡素化の流れに沿って、学会事務の外部委託を進める方針であることが示され、さらに学会規約に必ずしも実行できない条項が含まれていることについて、何らかの対処をしたいという意向が表面された。

8. 役員選任の件 五百旗頭新理事長

次期監事として、秋月謙吾会員(京都大学)が推薦され、選任された。

また佐々木前理事長を顧問に委嘱することが承認された。

役員構成を次のようにしたい旨の提案があり、了承された。

1999年度企画委員長 下斗米伸夫(法政大学)、2000年度企画委員長 御厨貴(東京都立大学)、2000年度年報委員長 加藤節(成蹊大学)、2001年度年報委員長 馬場康雄(東京大学)、1999年度文献委員長 藪野祐三(九州大学)、2000年度文献委員長 飯島昇蔵(早稲田大学)、国際交流委員長 大嶽秀夫(京都大学)、国際交流副委員長 蒲島郁夫(東京大学)、選挙管理委員長 寺崎修(慶應義塾大学)、常務理事 久米郁男(神戸大学)、幹事 福永文夫(姫路獨協大学) 品田裕(神戸大学) 網谷龍介(神戸大学)。

9. 閉会挨拶 梅津理事

1998年度 第1回理事会記録

日時 1998年6月6日(土) 午後1時から1時35分まで
場所 東京大学学部1号館2階会議室

1998年度第1回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

渡辺1998年度企画委員長から、研究集会の構成を会報に発表し、6月末締め切りで報告要旨の提出を待っている状態であることが報告された。

(2) 文献委員会

加藤秀治郎1998年度文献委員長が欠席のため、委員によって執筆が進められているとの報告が馬場常務理事によって代読された。

(3) 年報委員会

北岡98年度委員長より、現在研究会メンバーは鋭意執筆中であること、また公募論文については、審査のうえ修正を依頼した原稿が集まりつつあることが報告された。

加茂99年度委員長より、特集テーマに関する研究会が応募した科学研究費獲得ができなかったこと、また公募論文の応募状況は前回の理事会以降急速に改善し、最終的に20件の応募届けが出されたことが報告された。

(4) 国際交流委員会

大嶽委員長より、ECPRとの交流に関しては、先方より一国単位の学会と制度的関係を作ることは難しいとの意向が表明されたので、実質的に研究プロジェクトを積み上げる形で関係を維持する方針が示されて了承された。また韓国政治学会から公式の関係を作りたいという申し入れがあったが、研究交流で接触する機会をとらえて提案を聞いたうえで、対応策を検討したいという方針が示され、この

問題を次期理事会に引き継ぐことが了承された。

2. 五十周年記念事業関連

五百旗頭五十周年記念事業委員長および梅津理事より、準備は順調に進行している旨報告された。

3. 年報委員会費用の件

加茂年報委員長の報告にあった科学研究費の獲得ができなかったことへの対応策として、馬場常務理事より、過去の例では30万円を学会予算予備費より支出していることが紹介され、今回も同様の措置を執ることが提案され、了承された。

4. 事務局から

馬場常務理事から前回理事会で決定した、研究会における年会費徴収停止を会報で告知したことと、今後も周知につとめる方針であることが報告された。

また学会業務の外部委託に関しては、次期理事会における決定事項として引き継ぐ方針で作業を進めていることが報告された。また委託先に予定している学会事務センターとの交渉に関しては、次期事務局を中心に具体的な詰めを行っており、来年年4月からの委託をめざしているため、最終的な判断は12月頃の開催予定の次期理事会によってなされるとの見通しが示された。

5. 新入会員承認の件

下記の16名の入会が承認された。

伊藤修一郎、伊藤武、伊藤正次、遠藤貢、岡田一郎、関谷昇、相馬淳一、高橋暢雄、趙宏偉、田麗萍、原武史、松田憲忠、簗原俊洋、村山真紀、安井宏樹、若松邦弘

6. 次回理事会の日程の件

次回理事会を1998年10月3日(土)12:00より京都で開催することが承認された。

1998年度 第2回理事会記録

日時 1998年10月3日(土) 午後0時15分から12時45分まで

場所 同志社大学至誠館三階会議室

1998年度第2会理事会では、はじめに急逝された村川一郎理事に哀悼の意が表され、以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会および大会開催校

渡辺企画委員長より、ペーパーの増刷りのために開催校に多大の負担をかけていることに注意が喚起された。梅津開催校理事より、おおむね順調に大会が進行していることが報告された。ペーパー増刷をめぐる問題等については、梅津理事に対し、大会終了後に報告を理事会に提出することが依頼された。

(2) 文献委員会

加藤秀治郎文献委員長より、学界展望の記事が初校の段階となっていること、年報の分量に余裕ができたため、掲載量が予定より長くなったことが報告された。

(3) 年報委員会

北岡98年度年報委員長より、編集の進行が遅れているが、年内刊行に向けて努力を続けている旨が報告された。

加茂99年度年報委員長より、研究会が軌道に乗ったこと、論文応募の意志を示した会員が多数あったことが報告された。

(4) 国際交流委員会

大嶽秀夫国際交流委員長より、ECPRから招いたYsmal氏がやむを得ない事情のため来日不可能となった以外は、国際交流関係の研究会の準備が整っていることが報告された。また9月のAPSA総会に川人貞史会員（東北大学）、川出良枝会員（東京都立大学）、大嶽秀夫会員（京都大学）の3名を日本政治学会の代表として派遣したが、それ以外にも多くの会員が参加して盛況であった旨が報告された。

2. 五十周年記念事業に関する件

五百旗頭五十周年記念事業特別委員長より、前日の記念シンポジウムおよび記念レセプションが多数の出席者を得たことが報告され、開催校の同志社大学の多大の尽力に対して謝意が表された。

3. IPSAに関する件

蒲島IPSA常任理事より、8月31日から9月2日にかけてアメリカのボストンで開かれた執行委員会で(1)2000年ケベックでの世界大会のテーマが正式にWorld Capitalism,

Government and Community : Toward a Corporate Millennium? となったこと、(2)蒲島理事が各分科会委員長への日本政治学会からの起用を働きかけたので、打診があったときには積極的に引き受けてほしいこと、(3)各国の政治学会において女性の参加度を高めるよう依頼があったこと、(4)今後のIPSAラウンドテーブルの予定は、1999年春ポーランド、1999年夏イタリア(ナポリ)、2000年春イスラエルとなっていること、(5)2003年のIPSA世界大会に、南アフリカ、アメリカ、スペインが立候補したこと、の報告があった。なお2006年世界大会に日本がどのような態度をとるのかを2002年ぐらいまでに決める必要があるので、そろそろ検討を始める旨が述べられた。

4. 監事選任の件

佐々木理事長より石田徹監事の任期が満了したことが報告され、秋月謙吾会員（京都大学）を後任として総会において推薦することが承認された。なお監事の選任方法を再検討することが次期理事会への申し送り事項とされた。

5. 新入会員承認の件

下記の28名の入会が承認された。

荒井祐介、遠藤美奈、小野恵子、小野一、面一也、鹿子生浩輝、加納格、神谷昌史、河村厚、黒崎輝、小宮一夫、酒井由美子、武田知己、千葉尚子、滑志田隆、多田葉子、橋本卓、古川浩司、細井保、増田知子、宮城大蔵、村井哲也、村上浩昭、茂木崇、山脇直司、湯浅壘道、吉田慎一、渡辺博明。

6. 事務局報告

馬場常務理事より、会費の振込を示す伝票をこれまで5年間保管してきたが、帳簿が整っていることではあり、2年間保管すれば特に問題がないため、今後は2年を過ぎた伝票から処分する方針が提案され、了承された。

また大会期間中の会費の徴収を停止したため、学会事務局の業務が入会申込書の配布程度になっている現状から、大会会場での業務時間を短縮することが了承された

1998年度 第3回理事会記録

日時 1998年10月3日(土)午後0時50分から
場所 同志社大学至誠館3F会議室

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

下斗米1999年度企画委員長より、山谷清志(岩手県立大学)、小原薫(国学院大学)、大山礼子(聖学院大学)、出岡直也(慶応義塾大学)、添谷芳秀(慶応義塾大学)、川崎修(立教大学)、木宮正史(東京大学)、谷口将紀(東京大学)、岡本哲和(関西大学)、真淵勝(大阪市立大学)、月村太郎(神戸大学)の11氏に委員を委嘱した旨の報告があった。つづいて、10月2日第1回企画委員会を開き、1999年度大会の共通論題を「グローバル化の中の日本政治」(仮題)とすること、10~11の分科会をもつ予定であるとの報告があった。

(2) 年報委員会

加藤節1999年度委員長より、テーマを「内乱をめぐる政治学的考察」とし、科研費申請の準備を行っている旨報告があった。

(3) 選挙管理委員会

寺崎委員長より、準備中である旨報告があった。

(4) 国際交流委員会

大嶽委員長より、韓国政治学会から、年次

大会への相互派遣につき、公式の申し入れがあり、辻中理事を中心に小委員会を設け検討中である旨報告があった。また、APSAとの交流に関し報告があった。蒲島副委員長より、IPSA 2006年度世界大会への日本政治学会の態度ないし方向性を決めて欲しいとの申し入れがあった。

2. 審議事項

五百旗頭理事長より、佐々木毅前理事長を顧問に推薦したい旨報告があり、了承された。また、石田監事の任期満了に伴ない、秋月謙吾会員(京都大学)を後任に推薦することが報告され、了承された。なお、監事の選任方法について提案があり、今後理事会で検討していくことが了承された。

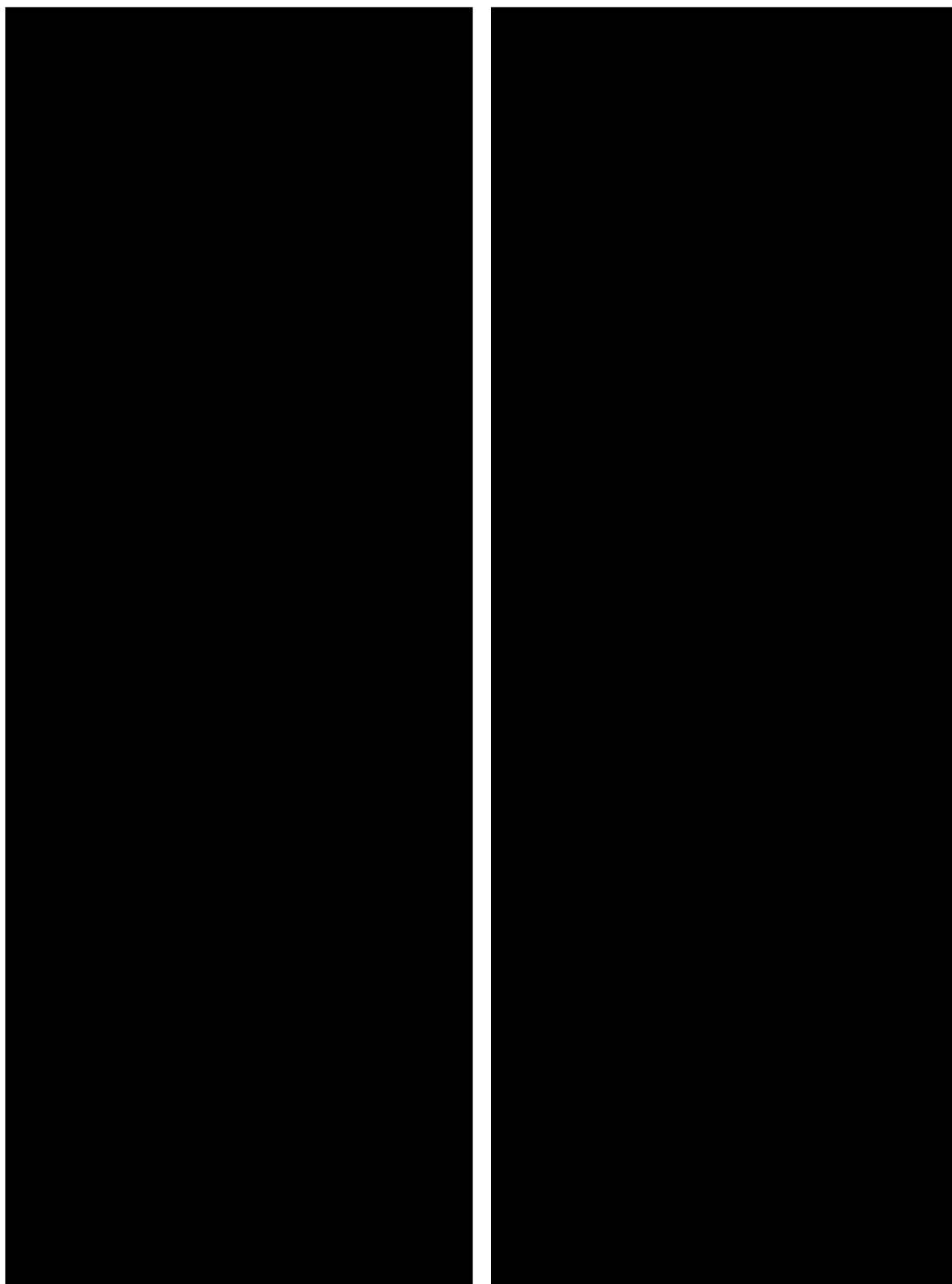
3. 事務局から

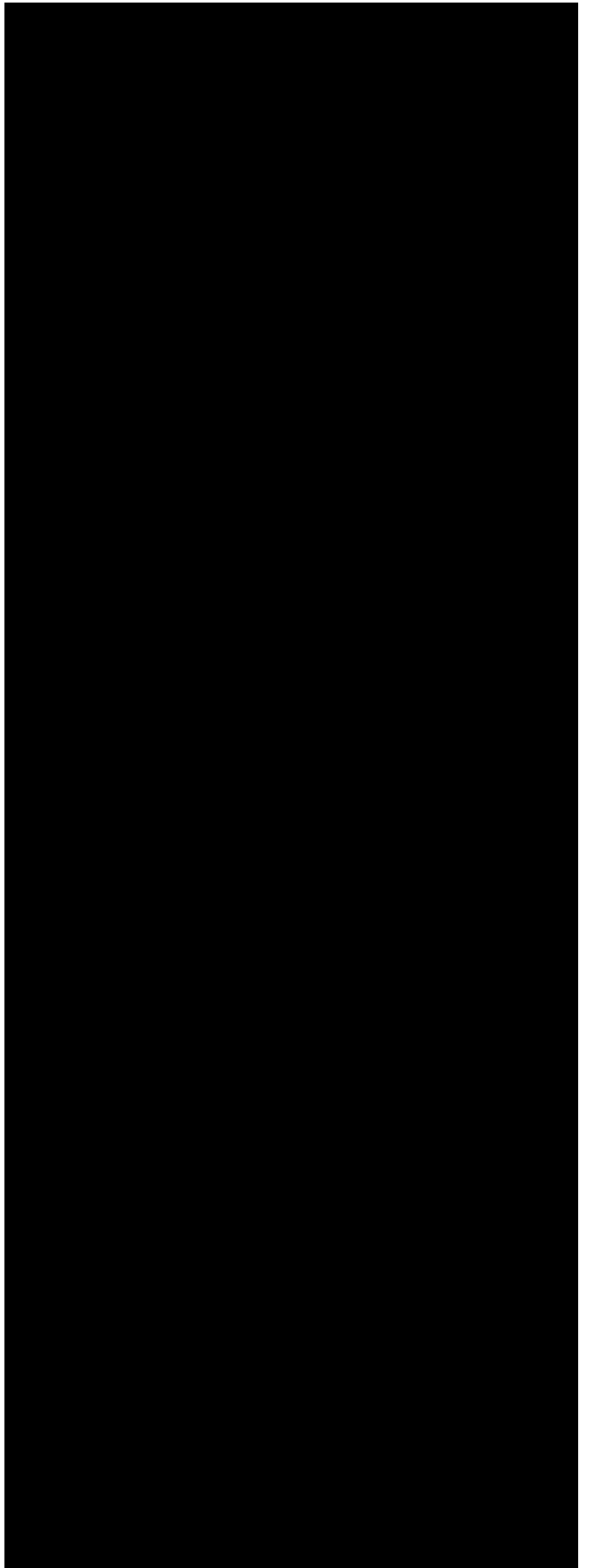
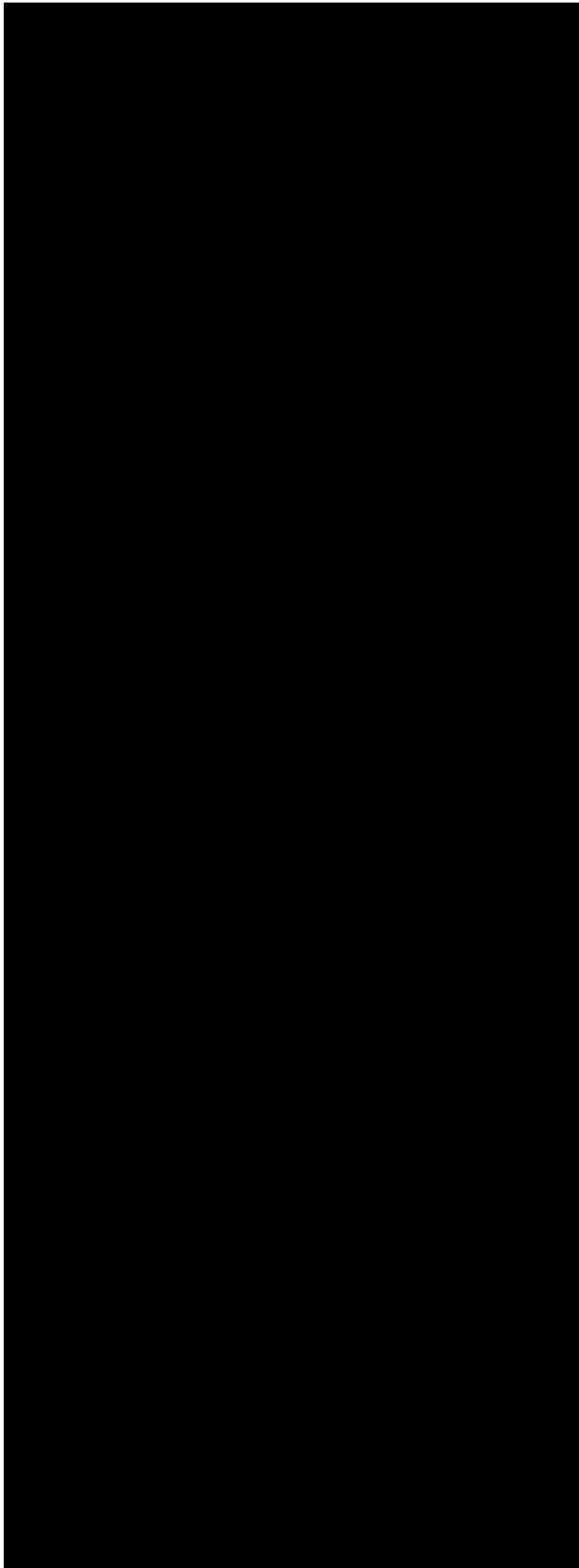
久米常務理事より、学会事務センターへの業務委託の件につき、改めて12月の理事会において詳細を決定したうえで、1999年4月より実施したい旨の報告があり、了承された。

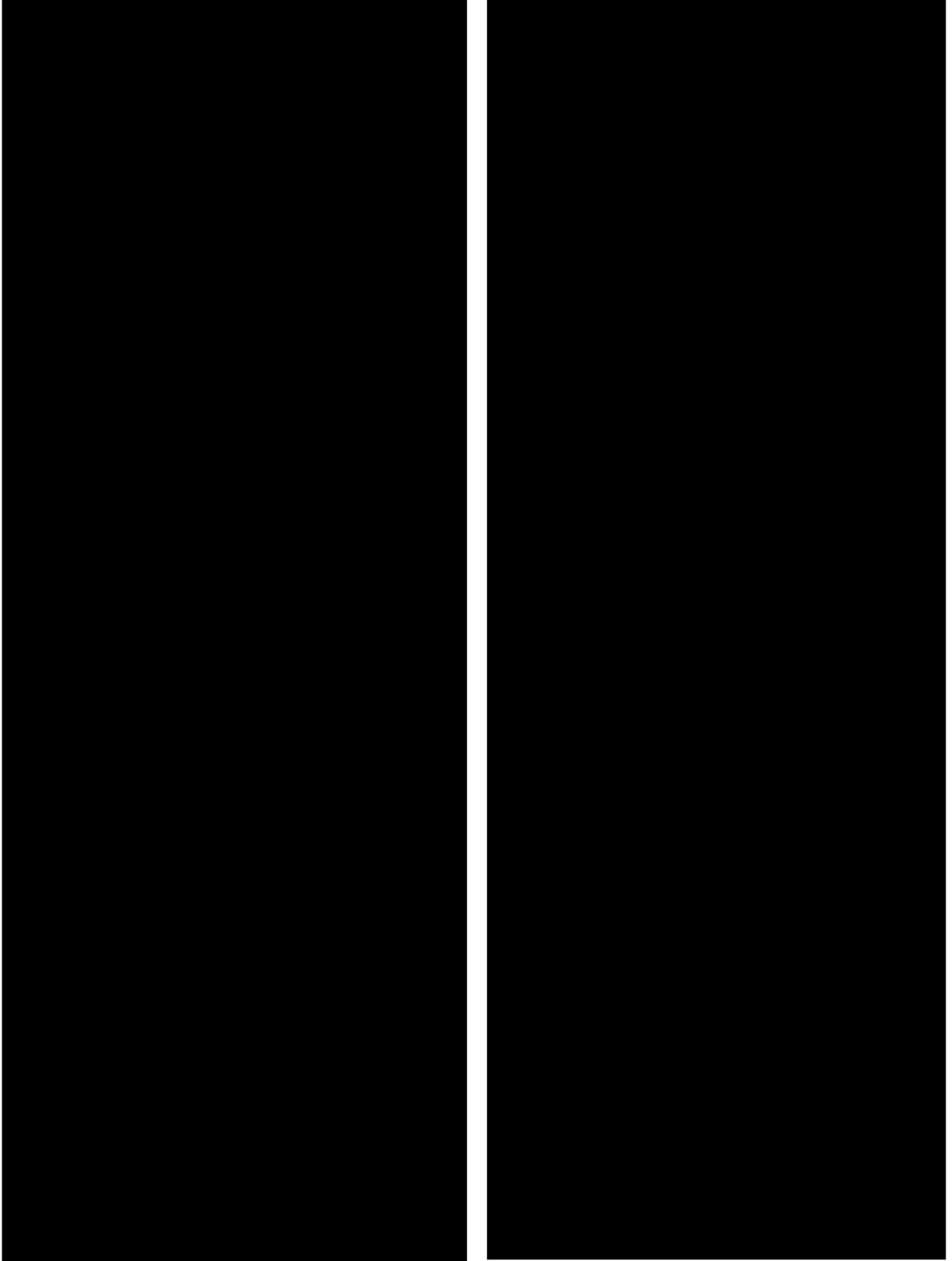
4. 次期理事会日程の件

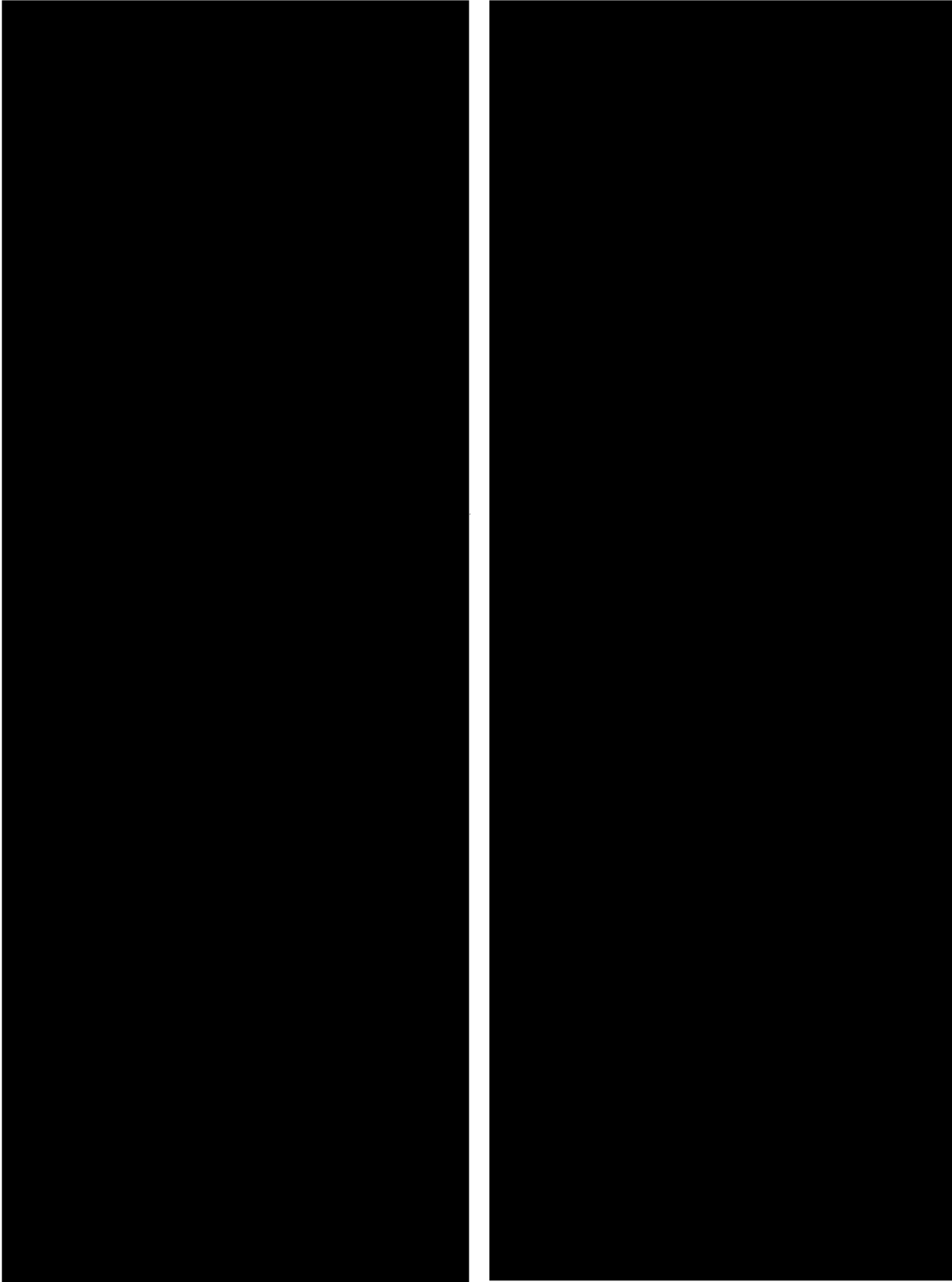
次回理事会を、1998年12月12日(土)13時30分から東京で開催することが承認された。

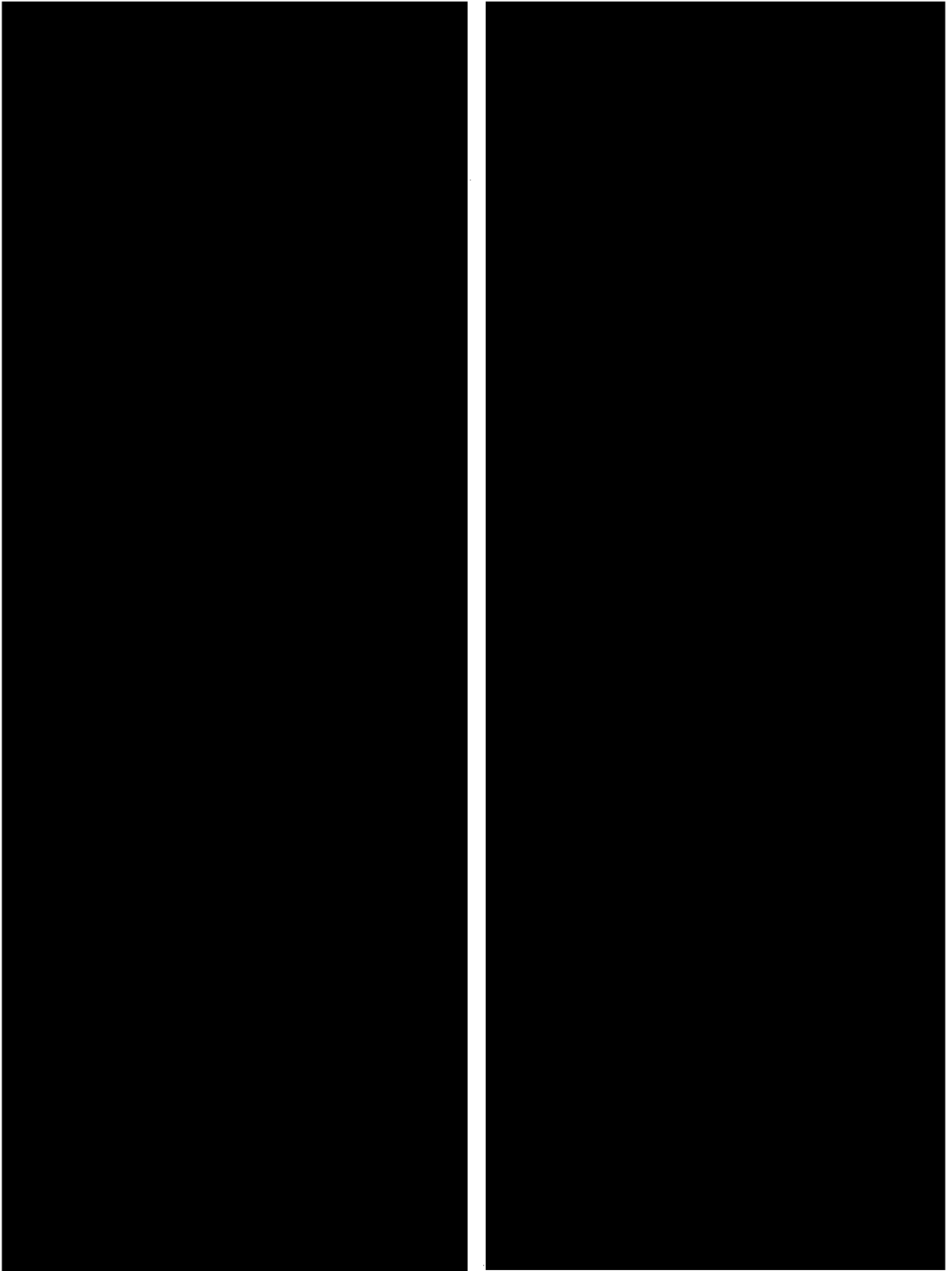
会員の異動 (1998.4.25~1998.10.5)

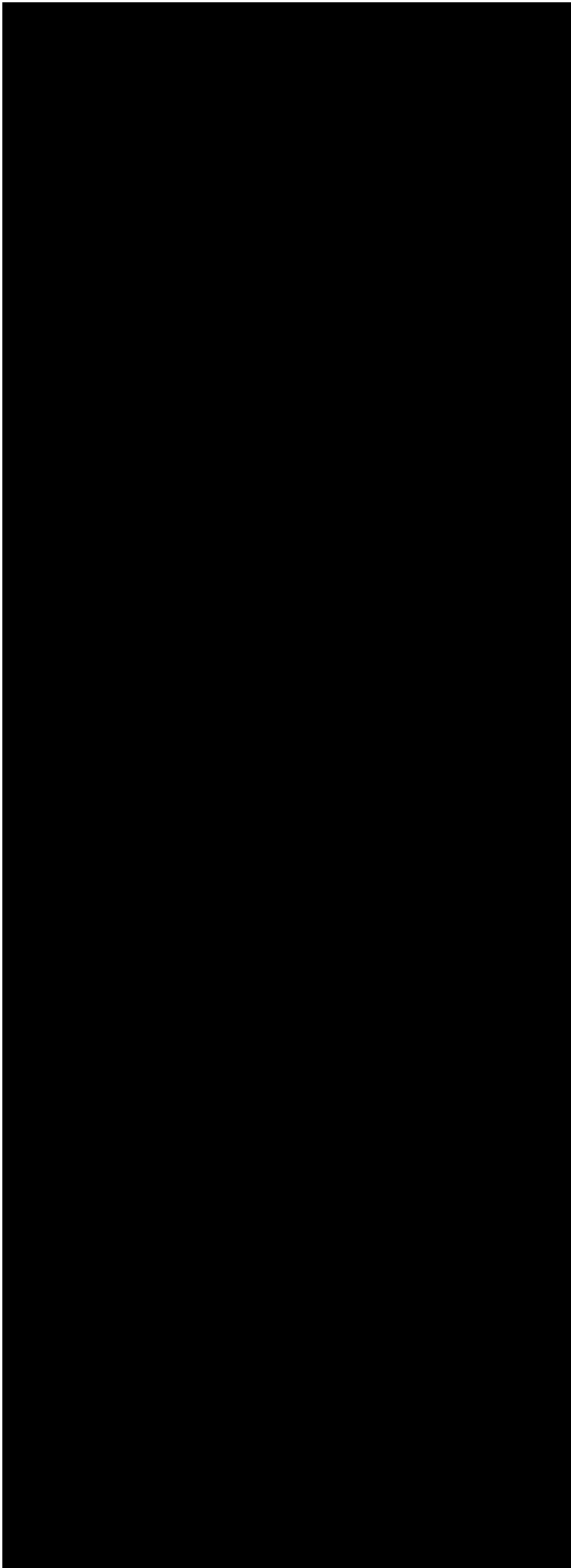


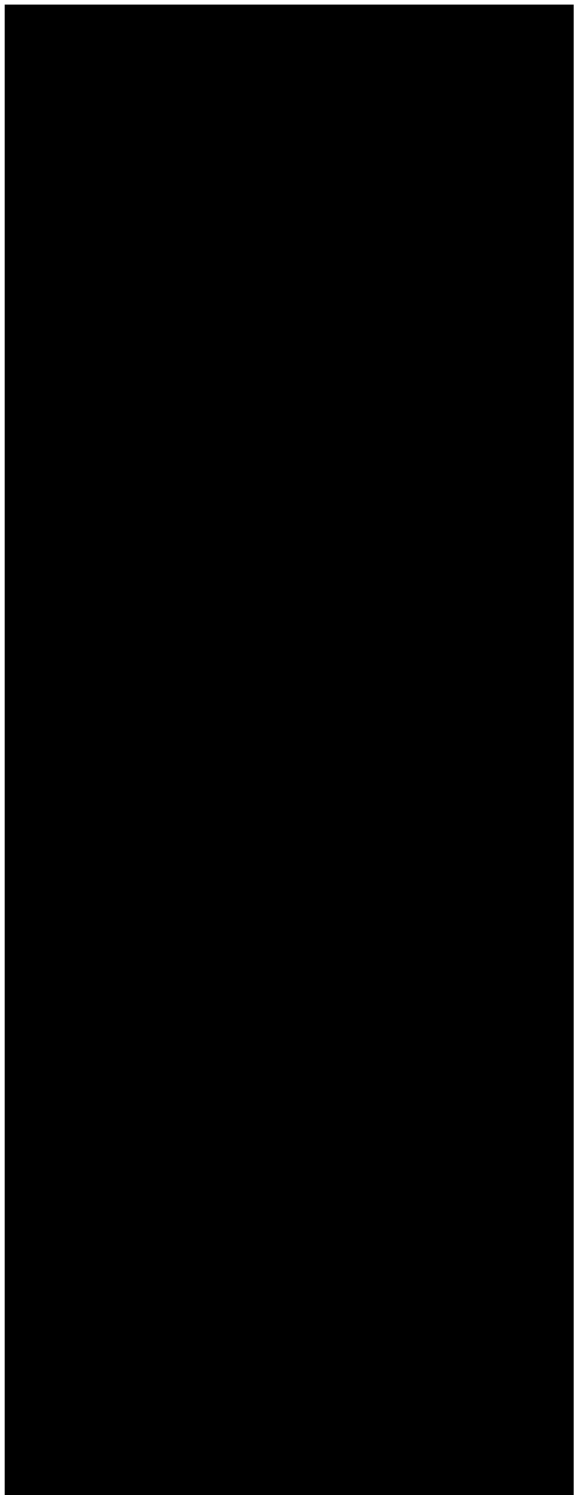
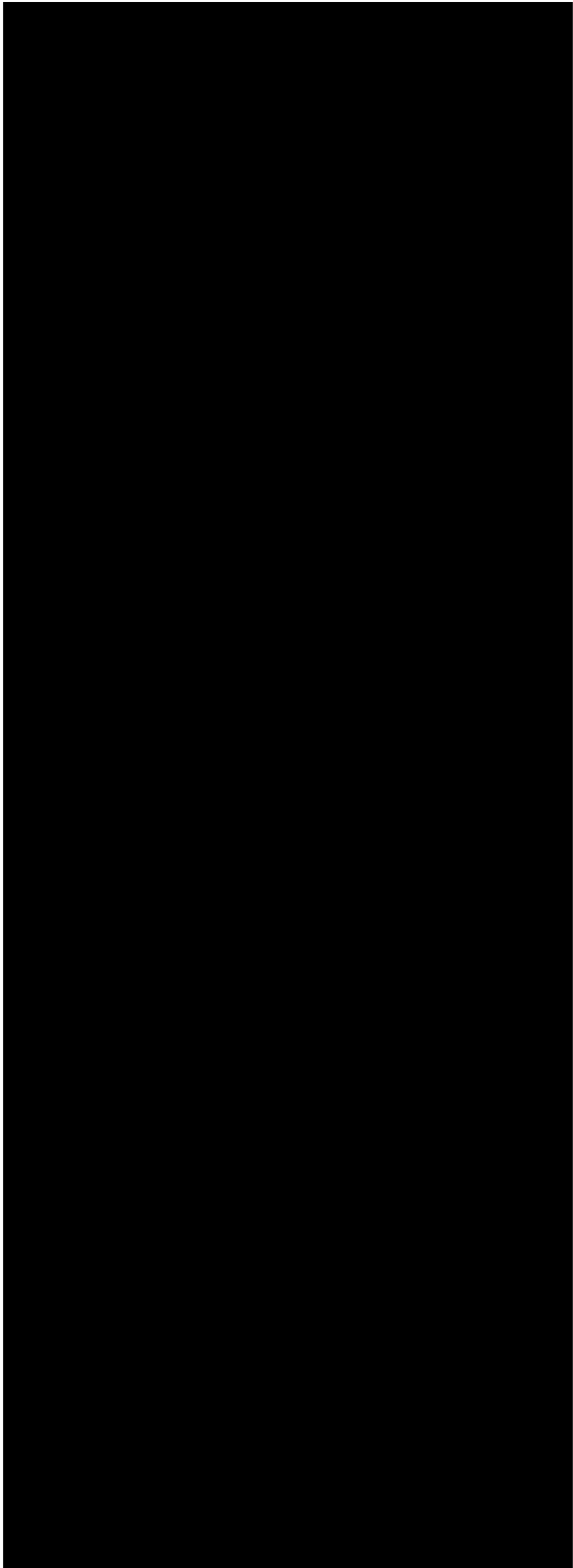












事 務 局 よ り

事務局移転のお知らせ

1998年10月日より、日本政治学会の事務局が東京大学から神戸大学へ移転しました。新事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1
神戸大学法学部内
TEL 078-803-1489
FAX 078-803-0260

旧事務局に対する会員の皆様からの2年間の御厚意に感謝いたします。新事務局へのより一層の御支援をお願い申し上げます。

計 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

岩永健吉郎 1908年生 比較政治学
大河内繁男 (上智大学法学部) 1941年生
行政学・地方自治論
小平 修 (京都産業大学法学部) 1932年生
政治制度論・政党論
村川 一郎 (北陸大学法学部) 1939年生
政策決定過程(日本)・政策分析

会費納入についてのお願い

年会費を未だお納め頂いていない会員の方が、若干おいでになります。『年報』の発送や、事務局業務全般にも支障をきたしておりますので、なにとぞ郵便振替にて速やかにご協力のほど、お願い申し上げます。

一般会員は7,500円、院生会員は5,000円ですが、ご不明な点は、お手数でも事務局までファックスまたは郵便にてお問い合わせくだされば幸いです。

本号の目次

1. 50周年を迎えて	1
2. 年報委員会からのお知らせ	2
3. 企画委員会からのお知らせ	2
4. 文献委員会からのお知らせ	2
5. 総会記録	3
6. 理事会記録	4
7. 会員の異動	6
8. 事務局より	14

年報委員会より

1998年度年報は例年通り12月刊行を目指しておりましたが、作業の進行が遅れ、1月刊行となりました。まことに申し訳ありませんが、今しばらくお待ちくださるようお願い申し上げます。

1998年12月8日

発行 日本政治学会事務局

久米郁男

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1
神戸大学法学部内

TEL 078-803-1489

FAX 078-803-0260

(お問い合わせはできるだけFAXで)

郵便振替番号 00100-8-84250

加入者名 日本政治学会

印刷 (株)ナカヤマ印刷